

文学部

I	教育水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、平成 19 年 10 月の大阪外国語大学との統合により教員数が増加した一方、従来の委員会体制に代えて研究推進室、教育支援室、評価・広報室、国際連携室による学生に対する充実した教育指導・支援体制が確立されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、授業改善のために様々なアンケートを行い、成績評価区分を細分化するなど、講演会を含めたファカルティ・ディベロップメント（FD）とそのフィードバックへの取組が適切になされているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、教育課程が全学共通教育科目と専門教育科目から編成され、共通教育科目と専門教育科目との間にその橋渡しとなる「専門基礎教育科目」を設定するなど、妥当な教育課程が設定されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、他学部や他大学との連携や学生の海外派遣が積極的に推進されているほか、インターンシップを含むカリキュラム構成や資格取得のための支援等、学生や社会の要請に対して真摯に対応しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、多岐にわたる文学部教育にとって、専修ごとにコースオーガナイザーを配置しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、教育支援室における電子メールによる学習相談の実施のほか、インターネット環境を十分に活用することによって学生の主体的学習を促す試みは、現代社会における人文学教育のひとつの大きな可能性を切り開くものとして評価できる。また、特に卒業論文の作成において、学生の主体的学習を促す指導が実施されているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、学生の履修状況、単位修得状況は妥当であり、また、教員免許や学芸員資格を取得する学生数も、少ないとは言えず、学生が然るべき能力を身に付けていることが窺われるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、学生アンケートの結果によれば、卒業論文を含めて授業や指導に対して高い満足度（70～80%）を示しており、学業の成果や仕事への有用性についても良好な評価（約 70%）を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、約 30%が大学院へ進学する一方、就職率は約 70%であり、就職先の業種は製造・サービス業が多く、マスコミを含めた情報通信業界、金融・保険業界にも数多く就職している。公務員、教育・学習支援業への就職も人気があり、当該学部教育の特徴を一定程度反映したものとなっているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、平成 19 年度実施の「文学部卒業生アンケート」では、卒業生から当該学部の研究活動と教育活動も「優れている」、「やや優れている」、「ふつう」

と感じている人が90%以上おり、高い評価を得ている。また、当該学部で「企業セミナー」や「会社説明会」を開催した際、各種企業の人事担当者から卒業生に対して「精緻な思考力」や「斬新で個性的な発想力」を備えた者が多いと概ね良好な評価を得ているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、文学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、文学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

相応に改善、向上している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が2件、「相応に改善、向上している」と判断された事例が2件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。